

■学校経営のポイント

情報活用能力を育てるポイント

小島 宏

情報活用能力の育成では、条件整備と指導内容が課題になっている。ここでは、後者を中心に校長のリーダーシップの視点から考えてみる。

情報教育の目標の3観点

校長は、以下3観点をバランスよく育てる指導計画の作成を担当分掌に指導・指示する必要がある。

〈情報活用の実践力〉 課題や目的に応じて情報手段を活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力。

〈情報の科学的な理解〉 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解。

〈情報社会に参画する態度〉 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度。

学習指導要領の位置づけ

また、全教員に、総則や各教科・道徳科等にどう位置づいているか確認するよう指導・指示する。

〈小学校〉 児童がコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力する等の基本的な操作や情報モラル(情報発信による他人や社会への影響、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味、情報には自他の権利があること、情報には誤ったものや危険なものがあること、健康を害する行動等)を身に付けるとともに、情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動。

〈中学校〉 生徒が情報モラル(ネットワークを利用する上での責任、基本的なルールや法律の理解、違法な行為のもたらす問題、知的財産権など情報に関する権利尊重の大切さ、トラブルに遭遇した時

の主体的な解決方法、基礎的な情報セキュリティ対策、健康を害する行動等)を身に付けるとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動。

21世紀型能力の情報スキル

国研は、21世紀型能力(基礎力、思考力、実践力)を提案している。基礎力では、言語スキルや数量スキル及び情報スキル(ICTの活用:情報検索・コミュニケーション・効果的な表現、情報モラル:アイデアの交換や借用等を通じて社会的な知識創造の在り方に習熟、情報ソースの建設的な使い方、情報社会の法律・ルール・マナーの基本、情報セキュリティの知識)の育成を求めている。

これらについても講話の機会をつくり、情報教育の重要性を教員に理解させるようにする。

基盤となる実体験

ICT活用がいかに盛んになろうとも、その基盤として、実験・観察・調査、読書や活字情報、既習事項や既有体験(生活・学習体験等)を活用して課題を解決する能力を育てることが重要となる。

このことについても教員に指導し、校長のミスリードで、ICT一辺倒にならないようにする。

教育課題に対する対処

いじめ、トラブル、個人情報保護、セクハラなどについて、発達段階に応じ情報モラルの指導を行い、理解させ実践できるようにする。その際、学校の情報を積極的に公表するとともに、啓発資料を提供するなど保護者や関連機関と連携して進めることが肝要である。また、教員の情報活用のモデルとしての存在は大きい。まず、教員自身が適切なICTの活用をするよう校長自ら率先垂範に努めたい。

さらに、校務処理にICTを積極的に活用し、子供と向き合う時間を生み出すように努めたい。

(こじま・ひろし=公益財団法人豊島修練会理事長)

●授業力不足の教員をつくらない指導法はこれ！
結果が出る 小・中OJT実践プラン 20+9

【編集】千々布敏弥 A5判・240頁/定価(本体 2,100円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

